

学校だより 12月号

あいかわ



発行所 厚木市立相川小学校
発行者 中村 明子
発行月 平成 29年 12月
児童数 12月 22日現在 199名
電話 046-228-2610

「フワフワ宇宙」～AIKAWA ハッピープロジェクト～

校長 中村 明子

地域・保護者の皆様からのたくさんのご支援やご協力のおかげで、2学期も充実した活動を展開することができました。心より御礼申し上げます。

さて、今回は本校の児童が取り組んでいる活動について、詳しくご紹介させていただきます。

木曜日の給食の時間……。テーマソングとともに聞こえてくるのは、AIKAWA ハッピープロジェクトのメンバーの声です。「あっ、今日もフワフワ宇宙の紹介が始まるな。」と思って聞いていると、子ども達のふわふわ体験が読み上げられていきます。「〇〇さんが、『いっしょに遊ぼう』と言ってくれたのがうれしかったです。」「えんぴつをおとしたとき◇◇さんがひろってくれてうれしかったです。」それを投稿する子ども達の姿を想像するだけで、なんだか心が温かくなります。6年生からは、「低学年の子がお掃除のとき一生懸命頑張っていて偉かった」という高学年目線での投稿もあります。縦割り班清掃でしっかりとリーダーシップをとっている6年生のがんばりに、拍手を送りたくなります。



実はこの AIKAWA ハッピープロジェクト、子ども達の主体性を原動力として活動がスタートしました。

平成 27 年度、当時 6 年生の男子 2 人が、「相川小学校のみんなの役に立ちたい。」という思いから、「ふわふわことばいっぱいにしてみんなが生き生きとすごせる学校にしよう！！」とテーマを設定して立ち上げたのが、この AIKAWA ハッピープロジェクトなのです。「ふわふわの木」を作成することや木曜日の給食の時間にみんなのふわふわ体験を紹介すること、自分達が卒業した後は、進んで立候補してくれた後輩に託していくことなどを決めました。初代の 2 人は卒業を目前にして、放送でこんなメッセージを全校に向けて発信しています。

<平成 28 年 3 月 17 日(木) 最後の放送から>

みなさん、こんにちは。今日で僕たちが放送するのが最後になりました。今日は、僕たちが思ったことを放送したいと思います。もちろん最後は、みんなが書いてくれたりんごの紙を読んでもらうので楽しみにしてください。

まず1つ目の思ったことは、みなさんがこの活動に協力してくれた事です。最初の方はたくさんチクチク言葉を使っていました。だけど、この活動を始めてからとても減ったと思います。とてもうれしかったです。

2つ目の思ったことは、いろいろな人が自分からやることです。たとえば、相川クリーンプロジェクトです。この活動は、自分達から「始める」といったそうです。とてもびっくりしました。そして、3年生が始めたあいさつ運動です。とってもがんばっていると思います。特に、〇〇さんです。とっても大きな声であいさつをしていて、朝からがんばっていると思いました。まさに、「あいさつの達人」だと思います。ぜひ、続けていってください。そしてみなさんも負けずにがんばってほしいです。

最後に、みなさん本当に今まで協力してくれてありがとうございました。そしてこれからも、リーダーの◇◇さんを中心にがんばっていってください。この活動の目的は、みんなが生き生きと過ごせる学校にすることです。みなさん、どんどんふわふわ言葉をたくさんにしましょう。

担任の助言があったのかな？と思い担任に聞くと、「全く知らなかった。全部あの子たちが自主的に行ったことです。」とのことでした。使命感をもった子ども達の行動力は最強！なのです。

今年三代目となるプロジェクトのメンバー4人は、昨年度末、プロジェクトを継ぐ者として名乗りを上げました。決意も固く、やる気に満ち満ちた表情に、彼らが真剣にこのプロジェクトに取り組むだろうと想像はしていましたが、毎週聞こえてくる放送に、彼らの思いと責任の強さを感じずにはいられません。

ちなみにプロジェクトの今年度のテーマは「いつも楽しく笑顔ふわふわ あいさつあふれる相川小学校にしよう」です。相川小学校をもっともっと良い学校にしていくためのビジョンを具体的に描き、自分達の力でそれを達成していこうと活動していく過程こそが尊いのだと思います。もちろんふわふわ体験を進んで投稿する子ども達にもそれは当てはまります。

この取組が後輩たちにも継がれ、ふわふわいっぴいの相川小学校をみんながめざしていけますように……。そんなことを祈りながら、木曜日の放送に耳を傾けている私です。

学校運営協議会 ～こんな子に 私たちにできること～

11月22日（水）に第2回学校運営協議会が開かれました。まず、学校より学校教育に関するアンケートの集計結果について報告しました。その後、部会別に、相川小の児童がどんな子に育てほしいか、そして、私たちが、学校運営協議会委員として、地域の大人としてどんなことができるか、熟議をしました。

そこで、今回は、熟議の内容をお伝えします。

こんな子に育てほしい

○あいさつ

あいさつは、地域や社会に通じるもの。笑顔で、自分からあいさつできる子。

○主体的な行動力、表現力、積極性

自分で興味あることや楽しさを見つけることができ、自分から聞いたり調べたりするなど行動に起こせる子。

主体的に行動することを通して、自分・友達・家族を大切にできる子、達成感の持てる子。

何かあった時に解決できる子。折れない心をもつ。

○コミュニケーション・地域愛

自分のことを人前で表現したり、進んで話したりすることができる子。

集団できちんと話の聞ける子。相川小の仲間という意識を持つ。

自分より弱い立場の人のことを思いやれる子、人の痛みがわかる子。

地域愛・地元愛を持てる子。（地域の人と交流をもち、将来、地域で活動する。）

○自然

自然や生き物を大切にできる子。

○安全

交通ルールを守って登下校できる子。



私たちにできること

○進んで声かけ・コミュニケーション

地域の大人が積極的に声かけ。毎日声をかけ、顔を覚えてもらう。

あいさつが返ってこなくても継続して声をかけていく。

子どもと同じ目線で話をする、聞く。

親同士も機会あるごとに話し合う。

子どもと仲良くなる。話せる関係づくりをする。

集団で遊ぶ機会をつくる。放課後の遊び方を教える。

子どもと一緒に遊び、問題が起きそうなときにアドバイスを。経験談を話す。

○地域へ広げる

地域の方の得意なことを引き出し、生かしていただく。相川小を交流の場に。

○生き物の飼育

○大人がお手本を示す（協力）



今回、学校運営協議会委員としてできることとして話し合いましたが、上に挙げたことは、委員のみならず、教職員、保護者、地域の方、だれでもできることだと思います。子どもたちのよりよい成長、そして、相川小がよりよい学校になっていくために、それぞれの立場でできることをしていきます。



今学期も、教育活動にご協力いただきありがとうございました。明日から冬休み。健康・安全に留意され、よい年をお迎えください。

